

第2章 大野市の生涯学習の現状と課題

1 人口と生涯学習施設の利用状況

(1) 人口の状況

大野市の人口は、平成7年(1995年)の国勢調査では40,245人でしたが、25年後の令和2年(2020年)の国勢調査では31,286人にまで減少しています。65歳以上の高齢者人口は増加していますが、15歳から64歳までの生産年齢人口、14歳以下の年少人口はともに減少しています。

平成30年(2018年)の国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、大野市の人口は、令和17年(2035年)には2万5千人を下回り、令和27年(2045年)には2万人を下回ると予測されています。

(2) 主な生涯学習施設の利用状況

主な生涯学習施設の市民の利用状況は次のとおりです。どの施設も令和元年度(2019年度)までの数年は、利用者数が微減で推移してきました。

施設名	平成30年度 までの推移	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
生涯学習センター	5~6万人	48,128人	27,507人
市内9公民館	8~9万人	83,876人	71,745人
図書館	10万人程度	97,555人	73,835人
歴史博物館	4~5千人	4,130人	3,102人
民俗資料館	4~5千人	4,323人	2,486人
本願清水イトヨの里	9千~1万2千人	9,688人	5,816人

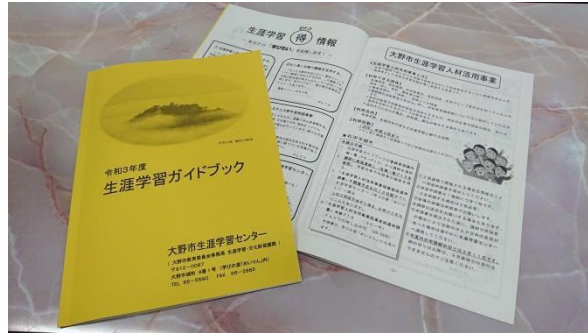
令和2年度(2020年度)においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての施設が利用を制限しました。

2 生涯学習の取り組み状況

大野市の主な取り組み状況は次のとおりです。

主な取り組み① 「事業紹介」

生涯学習の推進のため、各事業や講師を紹介する「生涯学習ガイドブック」を作成して、市民の自主的な活動に役立てています。



生涯学習ガイドブック

主な取り組み② 「保護者や乳幼児向けの事業」

保護者や乳幼児に向けては、育児支援や交流の場づくりを推進しています。子育てに悩む保護者を支え、子どもの健やかな成長を支援するため、「地域子育て支援センター」や「子育て交流広場ちつく・たつく」により情報提供や講座の開催などを進めています。



家庭教育講座



なるほど、親子で学べる講座もあるんだね。

主な取り組み③ 「青少年向けの事業」

青少年に対しては、地域全体で健やかな成長を育むことができるよう、親子教室などのふれあい交流を図っています。

また、小学生を対象に放課後子ども教室や子ども会育成会での体験学習・交流活動を実施しており、中学生と高校生を対象に次代の地域を担うジュニアリーダーの育成に努めています。



放課後子ども教室・放課後児童クラブ連携事業



ジュニアリーダーDAYキャンプ

ジュニアリーダー参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
登録者	56人	35人	41人	9人
事業開催数	3回	3回	3回	2回
参加人数	79人	46人	34人	12人

※近年のジュニアリーダーの登録者は、女子が80%以上を占めています。

主な取り組み④ 「成人向けの事業」

成人に対しては、公民館活動においてニーズに応じた講座を開設しているほか、生涯学習人材活用事業において仕事や趣味で知識や技術を身に付けた人を指導者として登録し、市民の学習の場に派遣しています。

また、高齢者の生きがいづくりにつながる「わく湧くお届け講座」や各公民館での人づくり事業を実施しています。



生涯学習人材活用事業

生涯学習人材活用事業参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
指導者登録者数	64人	65人	65人	63人
派遣回数	222回	224回	227回	117回
参加人数	5,582人	5,120人	4,500人	1,497人

※令和元年度の参加人数のうち、60代以上が約70%を占めています。また、女性の参加人数が70%以上となっています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣回数が減少しました。



わく湧くお届け講座

わく湧くお届け講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座登録メニュー数	84講座	85講座	80講座	79講座
派遣回数	110回	125回	98回	64回
参加人数	2,467人	2,441人	2,159人	1,151人

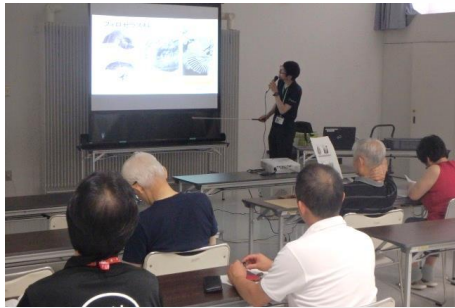
※わく湧くお届け講座は、行政が取り組んでいる事業について説明を行うもので、市民の学習の場に職員を派遣する事業です。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣回数が減少しました。

主な取り組み⑤ 「歴史や文化、自然を学ぶ事業」

大野市には、歴史的・学術的に貴重な資料が多く残っています。

それらを大切に守り、郷土の歴史や文化、自然を学ぶ機会として、歴史や化石に関する講座や博物館での企画展を実施しています。



博物館講座

博物館講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	5回	5回	4回	3回
参加人数	151人	140人	75人	81人

※博物館講座のうち、歴史に関する参加者は男性が多く、化石に関する講座は子どもを含めた家族連れの参加者が多い傾向にあります。



水の循環講座「スイスイ課外授業」

スイスイ課外授業参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	-	-	-	6テーマ×2回
参加人数	-	-	-	111人

※中学生以上を対象として、水循環をテーマに楽しみながら学ぶ講座です。令和2年3月に開館した「越前おおの水のがっこう」で開催しています。



水の循環講座「スイスイ課外授業ジュニア」

スイスイ課外授業ジュニア参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	-	-	-	2テーマ×2回
参加人数	-	-	-	23人

※小学生を対象として、水循環をテーマに楽しみながら学ぶ講座です。令和2年3月に開館した「越前おおの水のがっこう」で開催しています。



環境塾

環境塾参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	4回	1回	1回	中止
参加人数	127人	22人	35人	-

※小学生が対象ですが、参加児童の年齢や事業内容によっては保護者同伴としており、子育て世代と一緒に学習しています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

主な取り組み⑥ 「市民学校」

健康や食事、災害対策など、専門の講師を招き、さまざまな課題についての理解を深める講座を開催しています。



市民学校

市民学校参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	5回	6回	5回	5回
参加人数	280人	297人	394人	57人

※令和元年度の参加人数のうち、60代以上が約90%を占めています。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が減少しました。

主な取り組み⑦ 「人権同和教育推進事業」

身近にあるさまざまな人権問題に関する学習を通して、市民一人一人が差別意識の解消を図り、人権尊重の意識を高めるために講演会や学習会を開催しています。



人権啓発講演会

人権啓発講演会参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講演会開催数	1回	1回	1回	中止
参加人数	119人	174人	111人	—

※平成29年度から令和元年度までは、福祉ふれあいまつりととの共催により実施しました。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

人権教育学習会参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学習会開催数	9回	9回	5回	11回
参加人数	276人	288人	144人	389人

※令和2年度は、放課後子ども教室に参加している児童を対象に人権教育を行ったことで、例年より参加者数が増加しています。

主な取り組み⑧ 「職業訓練講座」

大野市職業訓練センターでは、身近で受けられる職業訓練に関する講座を開催しています。ITスキルの習得や業務に必要な人間関係づくりなど、仕事に役立つ内容を学習する講座を開催するほか、ハローワークなどが行う講座の会場として活用しています。



職業訓練講座

主催講座参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座開催数	31回	31回	29回	28回
参加人数	1,181人	1,669人	1,330人	1,418人

※大野市の主催講座として、エクセルやワードの活用やインターネットを利用した商品の販売方法、職場のハラスメントなどの講座を実施しています。

主な取り組み⑨ 「生涯学習フォーラム」

生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高めることを目的に、生涯学習フォーラムを開催しています。



生涯学習フォーラム

生涯学習フォーラム参加状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催数	中止	1回	1回	中止
参加人数	—	164人	200人	—

※平成29年度は大雪の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

いろんな講座が開かれているね。



3 生涯学習の現状と課題

現状と課題 1

生涯学習に求められる内容として、若い年代では「職業上必要な知識や技能」、高齢者では「趣味や健康・スポーツ」の割合が多くなっています。（内閣府が実施した生涯学習に関する世論調査※）

年代層によって生涯学習に求める目的や学習内容が異なるため、それぞれにふさわしい学習メニューを提供する必要があります。

現状と課題 2

これまでに開催した講座は、そのテーマや内容により高齢者や女性の比率が多くなるなど、参加者層に偏りがあるのが現状です。

全ての年代の市民が、年代に応じて学びたいと思える講座や教室の企画が必要です。

現状と課題 3

少子化・高齢化や人口減少が進む中で地域の絆づくりを進めるため、地域を担う人材を発掘し、育成することが課題となっています。

祭りや伝統行事、伝統芸能などを地域の宝として、守り伝えていく担い手の確保が必要になっています。

現状と課題 4

近年は、住民主体の新たな学習活動の進展が見られない状況となっています。

若い年代を中心に、市民ニーズに即した今日的な活動を住民主体で立ち上げられるよう、支援する必要があります。

※内閣府が実施した生涯学習に関する世論調査：40ページ参照

現状と課題 5

災害や事件、事故が発生した時など、地域で「協力し合う」「助け合う」という互助の大切さが改めて注目されています。

家族や地域の人が交流を深め、お互いを信頼することで、結の故郷にふさわしい関係を築く必要があります。

現状と課題 6

生涯学習の情報を各種広報などで提供していますが、認知度が低く、市民に関心を持たれていない状況です。

市民が生涯にわたって学習するため、分かりやすく情報を提供するとともに、いつでもどこでも生涯学習に触れる機会を増やし、気軽に集うことができる活動拠点の充実を図る必要があります。

これが改善ポイントだね！！

